

海外生活 エッセー

シンガポール事務所

多文化すぎる国シンガポールで リトル〇〇（国）に行ってみた

（一財）自治体国際化協会シンガポール事務所 所長補佐 尾崎 文彦（愛知県豊橋市派遣）

→ シンガポール国内でプチ旅行へ GO

多民族国家であるシンガポールには、中華系、マレー系、インド系などさまざまな民族が暮らしており、多様な民族の特徴を反映した特色ある街並みが観光地として有名です。代表的なものとしては、チャイナタウン、アラブストリート、リトルインド、カトンが挙げられ、これらの街に行けばまるで異国を旅しているかのようなプチ旅行気分を味わうことができます。

また、シンガポールは在留外国人が人口の3分の1以上を占めており、外国人の特色を反映した街並みも存在するため、プチ旅行気分を味わえるスポットが上記のほかにもまだまだあります。今回はそのようなシンガポールのプチ旅行スポット「リトル〇〇（国）」をご紹介します。

→ プチ旅行① 「リトルタイランド」

1つ目のプチ旅行スポットは、タイを体感できるリトルタイランドこと「ゴールデンマイルコンプレックス（複合施設）」です。これは1973年に建築された建物で、タイ行きのバス発着場にもなっていたことから、タイ人が多く集まるようになりました。タイ式焼肉「ムーカタ」をはじめとしたタイ料理店やカフェ、タイ産品を揃えたスーパー、服屋、雑貨屋などとにかくタイの物が何でも揃っており、店中でタイ語が使われています。平日の夜から多くのタイ人で賑わっているため、タイのローカル感を味わうことができます。



タイ料理のお店（タイの伝統的挨拶イ（合掌）をする像）

→ プチ旅行② 「リトルヤンゴン」

続いてのプチ旅行スポットは、ミャンマーを体感できるリトルヤンゴンこと「ペニンシュラ・プラザ」です。シンガポールの行政とビジネスの中心「シティエリア」にある5階建ての建物で、立ち並ぶ店のほとんどがミャンマーの料理、食品、雑貨、民族服を扱うお店です。店の経営者から来店客までほとんどがミャンマー人であり、商品にはビルマ文字が書かれているため、本当にミャンマーにいるかのような感覚を味わうことができます。



ミャンマー食品を扱うお店



ビルマ文字が書かれたミャンマー産のお菓子

この他にも、リトルマニラと呼ばれる「ラッキープラザ」、リトルインドネシアと呼ばれる「シティプラザ」など、国内にいくつもの「リトル〇〇」があります。日本にもこのようなプチ旅行スポットは存在しますが、シンガポールは特に東南アジアの気候であること、その国の定住外国人が多いことから、より一層現地にいるかのような気分を味わうことができます。

現在、新型コロナウイルスの影響により、海外旅行へ行きづらい状況となっていますが、「リトル〇〇」へ行くことでプチ海外旅行気分を味わうことができます。アフターコロナで旅行される際は、シンガポールで多くの国を一度に旅した気分を味わってみてはいかがでしょうか。